

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	一関市かるがも千厩教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月7日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～ 令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通所の特徴を生かしたこども・保護者支援	親子通所により、「保護者がこどもの成長とともに感じられ、関わり方を学ぶことができること」「こどもの状態像や育ちの度合いを共有しやすいこと」「保護者と話す機会を持ちやすく、悩み相談がしやすいこと」などの利点があります。これらの利点を生かし、保護者にもこどもにも満足してもらえるような支援を常にチームで検討しています。	引続き、こどもの強み(ストレングス)をしっかりとらえて保護者と共有し、保護者の悩みや疑問に寄り添った支援を心がけていきます。
2	こども1人につき担当指導員が一对一で行う担当制の支援	決まった指導員との関係構築によりこどもが安心感を得やすいよう、こども一人につき担当指導員が一名配置される担当制を採用しています。担当児のアセスメントをしっかりと行うことで、保護者にも安心感を持っていただけるよう心掛けています。また、怪我がないよう日々指導時に気を配っています。	担当制の良さを生かしながら複数の視点でより良い支援ができるよう、担当指導員だけでなくチームとして支援を構築し、より満足度の高い支援を目指します。
3	公共施設を利用することによる社会的ルールの獲得	公共施設であることの利点を生かし、効果的な療育支援を提供しながら指導員の見守りのもと、少しずつ公共施設でのルールを習得できるようサポートしています。施設設備に制限がある中でも、支援に役立つ部分を最大限に活用しています。	地域住民を招待しての行事等は行っていませんが、市民センターという公共施設を利用することにより、地域との緩やかなつながりを大切に、今後も、社会的ルールの獲得につながる取り組みを目指します。 こどもにとって刺激となり支援に影響を与える場合には、展示物の一時的な撤去をお願いするなど、「その子にとって最善の状態は何か」を常に意識しながら支援を行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設設備の修繕および支援場所の確保	公共施設の一画を事業所として利用しているため、療育を想定した建物の作りではありません。また、施設改修については、市民センター機能との兼ね合いを考慮する必要があり、即時改修が困難な状況となっています。	大規模な施設改修が必要な場合は、移転も含めた検討が必要です。前提として、公営の児童発達支援事業所を西地域に1か所(一関市かるがも教室)、東地域に1か所(一関市かるがも千厩教室)設置する場合、千厩教室は、東地域のアクセスしやすい場所に設置する必要があります。 移転や改修については、いずれの場合もマイナス影響を最小限に抑える方法を検討していきます。
2	支援日数の確保等、支援回数の充実	土日祝日が休業日であることや、親子通所およびグループ制での支援が行われていることから、1グループあたりの通所回数に限りがあることが挙げられます。また、より多くの子どもに通所してもらうことを重視しているため、一人あたりの活動回数に影響が出ていると考えます。	グループ制での支援は支援回数の充実に影響していると考えますが、支援上の利点も多くあります。グループ制の利点を維持しながら支援回数を増やす方法について今後も検討していきます。 在籍グループの活動日に参加できないことが続いたり、個別支援を優先する方が望ましい場合には、別途対応を検討するなど可能な限り配慮します。
3	各種マニュアルや情報の周知	施設内の掲示場所に限りがあり、また支援上の環境調整として刺激を少なくしていることから、最低限の掲示物にとどまっているため、情報の周知が完全ではないと考えます。	支援に影響が出ないよう、また保護者が情報を手取りやすい方法で各種情報の周知方法について検討します。 施設内の掲示場所に限りがある場合でも、保護者にとって必要な情報は見やすい位置に掲示するなど、必要な情報をわかりやすく伝える方法を検討していきます。